

「恋人の聖地」化が奏功

「若い世代にターゲットを絞った戦略が奏功した」と話すのは飛騨大鍾乳洞観光（高山市丹生川町日面）の中萩久夫社長（70）。昨年7月にNPO法人地域活性化支援センター（静岡市）が選ぶ「恋人の聖地サテライト」の認定を受け、訪れる若者が増加。落ち込んだ来場者数が持ち直した。年間約15万人の来場者うちカップルが約4割を占める。

ハート形にくりぬいたモニュメントを設置したり、鍾乳洞を7色の発光ダイオード（LED）ライトで演出するなどロマンチックな環境づくりが評価され、5月に恋人の聖地観光交流大賞2018の観光交流賞を受賞した。「今後も若者たちの思い出の場所でありたい」と、婚活イベントへの寄付などにも取り組む。

